

◎特集1:「旧朝香宮邸のアー・デコ」展より

東京都庭園美術館建物公開

EXHIBITION ART DECO AT THE PRINCE ASAKA RESIDENCE



図1

あさかのみややすひこ くにもみやあさひこ
朝香宮鳩彦殿下は、久邇宮朝彦親王の8番目の男子として、1887(明治20)年10月2日に京都でご誕生されました。朝香宮の称号を賜った1906(明治39)年当時、殿下には4人の兄宮(邦憲王・邦彦王・守正王・多嘉王)と弟宮(稔彦王)がありました。長兄にあたる邦憲王は、ご病身のため賀陽宮家を創立され、久邇宮家は次兄の邦彦王が継承されていました。邦彦王は香淳皇后(昭和天皇妃良子さま)の父君であり、鳩彦殿下は皇后の叔父君にあたります。「おヒゲの宮様」として知られた梨本宮守正王も鳩彦殿下のご実兄です。また弟宮の東久邇宮稔彦殿下は、戦後間もない頃に総理大臣をお務めになったことで有名です。

兄宮方と年齢の離れていた鳩彦殿下は、弟宮の稔彦王と従兄にあたる北白川宮成久王のおふたりと特に仲が良かったようです(図1)。3人ともに同い年で、幼少時から互いに励まし合い、時にはライバルとして競い合ったことでしょう。

朝香宮允子妃殿下は、明治天皇の第8皇女として1891(明治24)年8月7日にご誕生され、富美宮と称されました。妃殿下には明宮嘉仁親王・常宮昌子内親王・周宮房子内親王のご兄弟と、妹宮の泰宮聰子内親王がおられました。今日伝わる四姉妹のお写真は、やはり仲が良かったご様子を物語っています(図2)。

妃殿下の兄宮、嘉仁親王は後に大正天皇とな

り、ふたりの姉宮はそれぞれ竹田宮恒久王妃と北白川宮成久王妃に、妹宮は東久邇宮稔彦王妃となりました。恒久王は成久王の兄宮ですから、明治天皇の四皇女はいずれも鳩彦殿下のご兄弟や従兄方とご結婚されたことになります。

1923(大正12)年4月、北白川宮ご夫妻は留学

中の鳩彦殿下とともに、パリ郊外をドライブ中事故に遭われ、成久殿下はご逝去、聰子妃殿下と鳩彦殿下も重傷を負われました。この時ロンドンに滞在していた東久邇宮稔彦殿下は、急遽パリに駆け付けて事後の処理や看病に当たられたとのこと。仲睦まじい3人を襲ったこの悲劇が、後にアー・デコ様式の朝香宮邸(現東京都庭園美術館)誕生の契機となったことは、まさに運命のいたずらというほかありません。(牟田)



図3

図1. 右より稔彦王(東久邇宮)、成久王(北白川宮)、鳩彦王(朝香宮)。陸軍幼年学校在学中、明治30年代後半の撮影と思われる。

図2. 手前から周宮房子内親王(第7皇女)、泰宮聰子内親王(第9皇女)、常宮昌子内親王(第6皇女)と、富美宮允子内親王(第8皇女:右奥)。明治30年代後半に麻布御殿で撮影された写真と推測されます。

図3. ウィリアム・ブーグロー《編み物をする少女》1874年 画布、油彩 松岡美術館蔵

*本展では、朝香宮家ゆかりの品々と併せて、絵画・彫刻などの美術作品により構成した“アー・デコの館”旧朝香宮邸をお楽しみいただけます。



図2